

第1学年3組 防災教育活動案

第3時限 1年3組教室 指導者 岩瀬 美樹

1 単元 じしんがおきても、だいじょうぶ？

2 目 標

- (1) 地震防災について関心を持ち、防災への意識を高めることができる。
- (2) 地震の備えや、地震から身を守るためにどんなことをしたらよいのかを考えることができる。
- (3) 地震に備えるためにしていることを発表することができる。
- (4) 地震の恐ろしさや防災の大切さについて知ることができる。

3 単元にかける願い

4月に入学した1年生。保育園の頃より、火災や地震の避難訓練を月1回のペースで行っている子どもたちは、入学してすぐの火災避難訓練時も、教師の話を静かに聞き、「おかし約束」を守って、真剣な態度で訓練に臨むことができた。しかし、小さな地震の経験もほとんどない子どもたちは、地震の恐ろしさは、はっきりわからない。

「東海大地震はいつおきても不思議はない」と言われ、西尾市も東海大地震の防災対策強化地域に指定されている。市の広報で特集があったり、本校も地震防災教育を行ったりと、子どもも保護者もその意識を高めつつある。しかし、1年生にとっては、初めてであり、保護者にとってもその意識は薄い。また、小学生になって、登下校など、子どもたちだけで過ごす時間が増えた子どもたちには、そういうときの心構えなども新たに必要である。地震が起きた時にどうやって身を守ればいいのか、家庭で行っておきたいこと、家庭で話し合っておきたいことなど、必要なことは多い。

地震対策については子どもたちが一人でできることは、とても少ない。特に1年生にとっては、自分の身を守る方法を知ることがまず大切である。また、防災教育とは、家庭や地域も巻き込んだ教育であるという点から、保護者と一緒に調べたり、授業参観でその授業を行ったり、保護者の意識も高めたい。さらに短期間に学習を行うのではなく、1年間の中で、不定期に学習を行い、その意識の持続を図りたい。

4 学習計画（10時間完了）

- | | |
|------------------------|----------------|
| (1) じしんってなあに？ |（2時間） |
| ・おうちの人に地震の話を聞こう | ・発表しよう |
| (2) じしんがおきても、だいじょうぶ？ |（5時間） |
| ・地震が起きても困らないための工夫を調べよう | 本時4／5 |
| ・非常持ち出し袋の準備 | ・避難場所や避難の仕方の確認 |
| ・家具の固定 | ・学級の約束 |
| ・防災フェスタに参加 | |
| (3) じしんがおきても、だいじょうぶだよ |（3時間） |
| ・地震が起きたときの家族の約束 | |
| ・地震に備えて、新しく準備したこと | |

5 本時の学習

(1) 目 標

・地震の怖さを知り、家庭や学校での地震の備えについて考えることができる。

(2) 準 備

・教師 防災グッズ 絵カード

・児童 我が家の防災対策プリント

(3) 展 開

時間	児 童 の 活 動	教 師 の 手 だ て
(分) 5	1 おうちの人に聞いた地震の話を発表しよう ・阪神淡路大震災 ・三河地震 ・家が倒れるよ ・火災が起きるよ	・父母や祖父母に聞いている子を指名する。
	じしんがおきてもだいじょうぶ？	
20	2 自分の家の地震対策を発表しよう ＜けがをしないために＞ ・家具を固定しているよ。 ・ガラスにフィルムが貼ってあるよ ・ベッドの近くにスリッパが置いてあるよ ＜地震後にこまらないように＞ ・水や食べ物が用意してあるよ ＜家族が離ればなれにならないように＞ ・家族が集まる場所が決めてあるよ	・調べたことを発表させ、種類別に板書する。 ・カンパンなどを知らない子のために、非常持ち出しグッズを用意して、話題が出たときに提示する ・家庭により差があるので、準備ができていない子どもにも配慮する
15	3 クラスの約束を決めよう ・先生がいないときに、地震が起きたら…。 ・頭を守るときの合い言葉を決めよう 「かたつむり！」「だんごむし！」	・まず頭を守ることの大切さを知らせ、子どもにクラスの合い言葉を話し合わせる。
5	4 教師の体験談とまとめの話を聞く	・いろいろな場所にいるときに地震が起こりうることを知らせ、防災学習の大切さを話す。

(4) 評 価

・家庭の地震対策の大切さに気づいたか。

(発表の様子)

・クラスの合い言葉を決めることができたか。

(発表の様子)